

施策評価（令和2年度）

施策評価調書

戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略			
施策4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出			
幹事部局名	観光文化スポーツ部	担当課名	文化振興課
評価者	観光文化スポーツ部長	評価確定日	令和2年8月25日

1 施策のねらい（施策の目的）

多くの訪日客を迎える東京オリンピック・パラリンピックは、本県の文化を国内外にアピールできる絶好のチャンスであることから、多彩な文化事業を実施し、秋田ならではの文化を国内外に発信することで、交流人口の拡大につなげていきます。

また、本県の文化を発展させ、次の世代に継承していくため、文化団体の活動の活発化や若手の人材育成に取り組むとともに、本県文化の中核拠点となる文化施設の整備を推進します。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

施策の方向性(1)～(3)

代表指標①		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
文化事業への来場者数(人)	目標				455,000	460,000	465,000	470,000	
	実績		449,311	315,365	465,879	450,445			
	達成率				102.4%	97.9%			
出典：県文化振興課調べ		指標の判定			a	b			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—			
		東北	—	—	—	—			
	本県の芸術文化活動の振興に寄与し、かつ公益性のある文化事業について積極的に後援した(84件<△11件>)ほか、県内の文化団体等が行う交流人口の拡大等に資する取組22件<+2件>について助成(「文化による地域の元気創出事業費補助金」)等を行ったが、悪天候により、令和元年10月に男鹿市で開催する予定だった「新・秋田の行事(2日間で見込み来場者30,000人)」の中止等の影響により、目標には届かなかった。								

※ 指標の判定基準

「a」：達成率 $\geq$ 100% 「b」：100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 「c」：90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

2－2 成果指標・業績指標の状況と分析							施策の方向性(1)(2)		
成果・業績指標①		年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
「beyond2020プログラム」認証事業数(件)		目標			20	30	40	50	
		実績	－	7	37	38			
出典:県文化振興課調べ		達成率			185.0%	126.7%			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	－	－	－	－			
		東北	－	－	－	－			
	・東京オリンピック・パラリンピックの開催に当たり、国が日本文化の魅力をホームページ等で世界に向けて紹介する「beyond2020プログラム」について、平成30年4月から本県も認証組織になったことから、県内文化団体等へ同プログラムの周知に努めるとともに、「文化による地域の元気創出事業費補助金」において同プログラムの認証を受けることを交付要件としたこと等により、認証件数が増加している。								

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) 秋田ならではの文化資源のPRと、文化を通じた交流人口の拡大【文化振興課】	指標	代表①、成果①
・県内文化団体等への「beyond2020プログラム」の周知等に努めるとともに、民間団体が企画する芸術文化活動等の開催経費に対して助成する「文化による地域の元気創出事業補助金」において同プログラムの認証を受けることを交付要件としたことなどにより、認証件数は38件<+1件>となった。 ・伝統行事「男鹿のナマハゲ」にスポットを当て、男鹿市において本県を代表する伝統芸能等が一堂に会する「新・秋田の行事」を2日間開催する予定であったが、台風の影響により中止となった（出演団体は17団体を予定<+5団体>）。なお、男鹿のナマハゲ行事等を体験する「お祭り体験ツアー」は実施し、県内外から16組27人が参加した。 ・秋田市及び三種町において、石井漠、土方巽の流れを汲む舞踊・舞踏家を国内及び海外（韓国、シンガポール、イスラエル）から招へいし、「石井漠・土方巽記念国際ダンスフェスティバル『踊る。秋田vol.5』」を開催した（来場者数1,277人<△1,056人>）。 ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化イベント「東京キャラバンin北海道」に伝統行事「男鹿のナマハゲ」を派遣した（延べ観覧者数1,680人）。 ・あきた文化情報サイト「ブンカDEゲンキ」及びFacebookにおいて、県主催事業やあきた文化交流発信センターのイベント情報等を随時発信した。「ブンカDEゲンキ」のページビュー数は108,816回<+3,339回>、Facebookの「いいね」数は5,088件<△65件>であった。 ・文化団体による民謡や音楽、ダンスなどの文化イベント開催や、美術、文芸作品の展示など、県民が日常的に鑑賞できる場である「あきた文化交流発信センター（秋田駅前商業施設内）」において、民謡や秋田万歳等の伝統芸能をはじめとする多数の文化イベントが開催されたほか、西馬音内盆踊りの資料展や本荘ごてんまりなどの展示を実施し、本県文化に触れる機会を提供した（文化イベント158件<△108件>、展示19件<△3件>、来場者数延べ27,549人<△7,177人>）。		
(2) 文化団体の活動促進と次代を担う人材の育成【文化振興課】	指標	代表①、成果①
・芸術文化活動を促進するため、「あきた県民文化芸術祭」を開催（令和元年9～11月）し、県、市町村、文化団体が62件<+2件>の文化イベントを実施したほか、工芸、写真の分野で2人に「秋田県芸術選奨」を贈り、優れた創作活動を顕彰した。 ・将来性のある音楽家の発掘・育成を目的とした「青少年音楽コンクール」を開催した（延べ158人参加<△31人>）。また、県民の文芸活動の創作意欲の高揚と文芸活動の普及振興を図ることを目的に、広く県民（県外の県出身者を含む）から文芸作品を公募し、受賞作品を掲載した作品集を刊行した（応募作品255点<△12点>）。 ・若者の力で秋田を元気にする目的で実施した「アーツアーツあきた」において、本県で活躍する新進気鋭のアーティストによる絵画、彫刻、書道、工芸分野の美術展覧会を開催した（出展アーティスト14組、来場者数758人）ほか、展覧会等での発表を希望する若手アーティストを募り、活動を支援した（アーティスト3人、来場者数1,061人）。 ・秋田県芸術文化振興基金により、民間団体の多彩な芸術文化活動や若者の文化活動に対して支援を行った（22件<+2件>）。		

(3) 本県文化の中核拠点となる文化施設の整備【文化振興課】	指標	代表①
・秋田市と連携して進めている「あきた芸術劇場」の整備について、令和元年7月に建築、電気設備、空気調和設備、給排水衛生設備の工事に着手した。 ・県民会館の閉館中もより多くの県民が芸術文化に触れる機会を提供するため、令和元年12月に県立体育館において吹奏楽、舞踊、伝統芸能等のステージイベント「Akita Jam Festival 2019」を開催した（来場者約1,500人△200人、出演者約240人＜+40人＞） ・県民会館の閉館中も県民が質の高い音楽に触れる機会を提供するため、市町村公演事業担当者やアーティスト（2組）を対象に、学校等に出向いてミニコンサート等を行うアウトリーチの手法等を学ぶ研修会を開催し、秋田市内の3小学校においてアウトリーチを実践した（参加児童数193名）ほか、県内4市町（大館市、能代市、横手市、羽後町）において小学校でのアウトリーチとホールでの公演を実施した（参加者数1,333名）。また、県内4市（秋田市、鹿角市、由利本荘市、湯沢市）において、プロの楽団による来場者参加型のコンサートを開催した（来場者数2,546人）。		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
B	● 代表指標の達成状況については、①「文化事業への来場者数」は「b」判定であり、定量的評価は「B」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

● 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

● 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。					
調査年度		R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度						
満足度	肯定的意見	18.1%	17.0%			▲1.1%
	十分 (5点)	2.4%	2.5%			+0.1%
	おおむね十分 (4点)	15.7%	14.5%			▲1.2%
	ふつう (3点)	39.7%	40.6%			+0.9%
	否定的意見	27.4%	28.3%			+0.9%
	やや不十分 (2点)	18.5%	18.9%			+0.4%
	不十分 (1点)	8.9%	9.4%			+0.5%
	わからない・無回答	14.9%	14.1%			▲0.8%
平均点		2.81	2.79			▲0.02
調査結果の認識、取組に関する意見等						
○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.79」で、「ふつう」の3より0.21低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。 「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は17.0%、「ふつう」は40.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.3%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は57.6%であった。 ○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。 ・秋田ならではの文化の魅力に県民自身が気づいてない。全国に発信するに足る、本当に魅力的なコンテンツを県民を交えて精査するべきである。（性別不明／年代不明・居住地域不明） ・もっと秋田の文化の魅力をネットなどを使って国内外の人に伝えることができればよい。（女性／60歳代／秋田地域） ・なまはげの印象があまりにも強すぎて、他の魅力ある文化が知られていない。（男性／70歳以上／北秋田地域）						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	○ 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした本県ならではの文化の発信が十分に進んでいない。 ● 秋田ならではの文化の魅力に県民自身が気づいてない。全国に発信するに足る、本当に魅力的なコンテンツを県民を交えて精査するべきである。(県民意識調査より)	○ 新型コロナウイルスの影響により大規模な公演等が開催できない芸術文化事業について、無観客公演の開催とその模様を撮影した動画制作・配信に対して支援を行うなど、新たな手法による本県文化の国内外への発信を進める。 ● 「あきた文化交流発信センター」や「ブンカDEゲンキ」において広く県民の要望や意見を聞くとともに、秋田ならではの文化に対する関心を更に喚起するよう、国内外へ向けた情報発信の強化に取り組んでいく。
(2)	○ 伝統芸能や芸術文化活動の担い手の高齢化が進んでいる中、若者育成の観点で取り組んでいる事業への参加が伸びない。	○ 若者の作品発表機会の充実に向けた取組や文化活動への助成制度等を広く周知しながら、鑑賞者の増加も含めて県全体で若者育成の機運の醸成を図る。
(3)	○ 令和4年3月に開館予定の県・市連携文化施設である「あきた芸術劇場」では、従前の秋田県民会館における利用受付方法(原則として窓口で手続を行う)の改善を求める声がある。	○ 窓口での受付に加え、FAX、メール、郵送等による受付や施設予約システムの導入について検討し、利用者の利便性・満足度の向上を図っていく。

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「B」をもって妥当とする。